

## 中野市水道事業運営審議会 会議録（要旨）

日 時：令和 6 年 5 月 28 日（火）午後 2 時 00 分～2 時 55 分

場 所：会議室 43

出席者：委員（敬称略）池田寛信、藏谷伸太郎、酒井久、関きよ子、  
竹内小百合、常田修、羽片義人、馬場保

事務局 石川建設水道部長、小林上下水道課長、中山課長補佐兼  
下水道係長、高橋監理係長、中嶋上水道係長、綱嶋副主幹、  
望月主任主事

### 1 開 会

【石川建設水道部長】

### 2 あいさつ

【湯本市長】

### 3 会長の互選並びに会長代理の指名について

池田寛信委員を会長に選出

関きよ子委員を会長代理に指名

### 4 上下水道事業の概要について【資料 1】

【小林上下水道課長】

### ○質疑応答

<特になし>

### 5 諮問・協議事項

#### （1）諮問

【湯本市長】

令和 7 年度から令和 9 年度までの 3 年間の算定期間における水道料金並びに下水道使用料及び農業集落排水施設使用料について諮問する。

#### （2）中野市水道料金並びに下水道使用料及び農業集落排水施設使用料の改定について【資料 2】

【小林上下水道課長】

## ○質疑応答

【委員】

「基本原則」は、根拠となる法令が存在するのか。

【小林上下水道課長】

地方公営企業法に規定されている。

【委員】

水道事業と下水道事業に適用されるということか。

【小林上下水道課長】

上下水道事業に限らず、公営企業が実施する事業について規定する法律となっている。

【委員】

今後、人口が減少し続けることを考慮すると、「独立採算制の原則」を守り続けることは、困難になっていくと思われる。今回の改定で 20,000 円値上げしたとしても、令和 17 年度以降再度値上げしなければならないのではないか。「独立採算制の原則」を守るためにどこまで値上げしていくつもりなのか。また、再度値上げをしないための対策はあるのか。

【資料 2】では、今後 10 年間の財政推計が示されたが、過去 10 年の実績を示すことは可能か。

【小林上下水道課長】

今回の推計では、あくまで 10 年後の経費回収率を 100%にするためには、どうしたらよいかということで計算をした。また、過去 10 年間については、農業集落排水処理施設の統合を進める等経営の効率化に努めてきた。

【委員】

今後も施設の統合を進めていく予定か。

【小林上下水道課長】

今後も、施設の統合を検討していく。

【委員】

(下水道事業会計の経費回収率) 65.4%とあるが、下水道事業が始まった時から 100%を下回っているのか。

【小林上下水道課長】

下水道事業が始まった当初から、経費回収率は 100%を下回っている。

【委員】

一般会計からの繰入金 34.6%は金額にするといくらか。

【小林上下水道課長】

34.6%の金額については、年間 3 億円である。

また、「一般会計からの繰入金 34.6%」は、ルール外分に相当するものであり、一般会計からの繰入がないと下水道事業が成り立たないという意味で記載している。

【委員】

一般会計から 3 億円もらわないといけないということなら、一般会計はどうするのか。

【小林上下水道課長】

先述したように、下水道事業は、独立採算制を原則としている。そして、独立採算制のルール外として一般会計から毎年3億円を繰入しないと下水道事業が成り立たないという意味の説明書きである。一般会計がどうなるという説明ではなく、あくまでも3億円繰入しないと下水道事業が成り立たないという意味の説明である。

【委員】

現状は成り立っていないということか。成り立っていないから、どこかから補填されているという意味か。

【委員】

中野市の税収から下水道事業へ補填しなければならないということではないか。

【委員】

3億円も繰入してよいのか。

【小林上下水道課長】

よいか悪いかという話になれば、悪い。

【委員】

だから、1家庭当たり20,000円値上げしたいという提案ではないのか。

【委員】

20,000円で足りるのか。

【小林上下水道課長】

今後10年間は、足りる見込みである。

【委員】

現在、人口減少が進行しており、10年後以降も減り続けた場合に、結局20,000円の値上げでは足りなくなるのではないか。そうするとまた、下水道事業が成り立たなくなる。であれば、独立採算制の原則を何とかしないと成り立たないのではないか。原則ということは、例外があるのではないか。

【小林上下水道課長】

例外は存在する。

【委員】

では、可能であるならば、例外で市の財政から3億円補填していったほうがいいのではないか。そのほうが、市民の負担が少なくて済むのではないか。

【委員】

ほかの市町村も下水道事業については、値上げを検討しているのか。

【小林上下水道課長】

全市町村を調べたことはないが、こういった形で料金改定は必ず検討している。

【委員】

水道事業は、独立採算制の原則が成立しているという認識でよいか。

【小林上下水道課長】

よい。

【委員】

市民は、上下水道で合わせて使用料を支払っている。上下水道事業の会計を一つにすることはできないか。一つにすれば、3億円を補填できるのではないか。

【小林上下水道課長】

会計を統合することは、難しいと思われる。下水道事業の不足分を水道事業で補填することについては、独立採算制の原則から逸脱するため困難と思われる。

【委員】

会計の統合が困難である理由は、上水道しか使用していない人がいるためか。

【石川建設水道部長】

水道を使用する者が水道を、下水道を使用する者が下水道を負担する。

【委員】

会計を統合すると、水道しか使っていない者が下水道事業に係る経費を負担することになるため、統合はできないということか。

【石川建設水道部長】

そうだ。

【委員】

実際には一緒にすることはできないということによいか。

【小林上下水道課長】

よい。

【委員】

基本料金を上げないで、従量分の料金を上げることは可能か。

【小林上下水道課長】

基本料金と従量分の料金の改定割合については、まだ検討が進んでいない。

【委員】

水道事業の料金回収率が100%以上を維持できる見込みであれば、下水道事業の不足分を補填できればよい。

現在、公共管内に相当数の浄化槽が残っていると認識している。それらを下水道に接続できれば、経費回収率の向上につながるのではないか。立ち入り検査やBOD検査（一定期間に消費された水中の酸素消費量を測定することにより、水の中の汚れの量を数値で表したもの）を実施し接続率の向上につなげてはどうか。

【石川建設水道部長】

下水道の接続は個人の負担が大きいため、接続を強いるようなやり方は難しい。

## 6 報告事項

（1）上下水道事業窓口業務等委託の導入について【資料3】

【小林上下水道課長】

## ○質疑応答

<特になし>

## 7 その他

【高橋監理係長】

審議会の今後の予定について説明する。答申までの審議会の開催回数は、3回から4回を予定している。第2回の審議会は7月の下旬に開催する予定。詳細については、後日通知するが、次回は事前に資料等を送付する。

使用料の改定案などについて審議してもらい、9月下旬に答申してもらう予定。

## 8 閉会

【会長】